

空き家をホスピスに

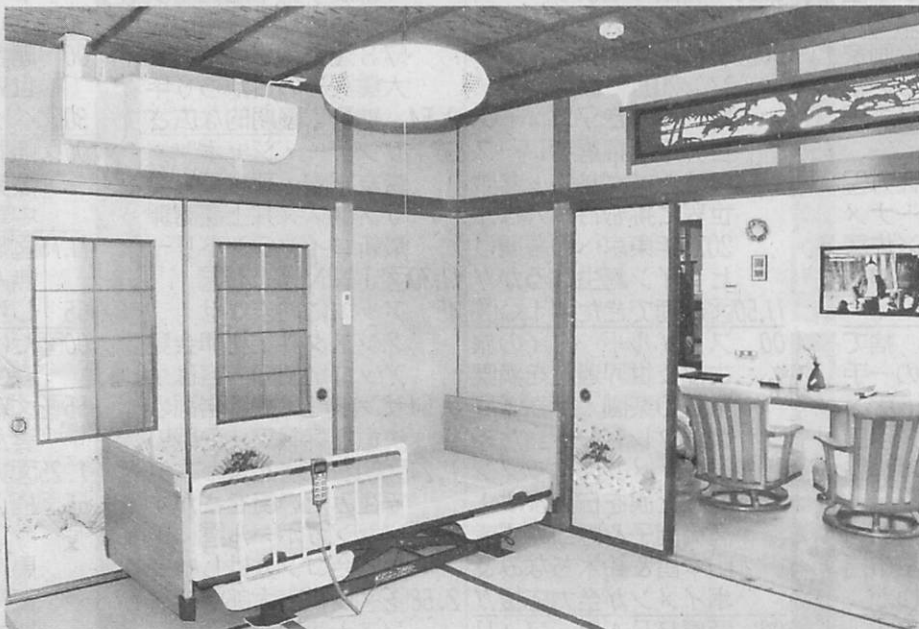
県内初、伊勢で開所

自宅の雰囲気です終末期ケア

民間共同住宅

【伊勢】住み慣れた自宅のような雰囲気です、暮らしとみとりを家庭的なケアで支える民間の共同住宅「ホームホスピスイセ あこや」が伊勢市岡本にオープンし、十一日に同所で開所式があった。ホームホスピスの開所は県内では初めて。

(橋本綾)



同市内でデイサービスや学童保育などの事業を展開する「認定NPO法人ときわ会 藍ちゃんの家」の藤田慶子理事長(左)が、「高齢者が最期まで暮らせる生活の場所をつくりたい」と、二年前に計画。知人が所有する空き家を活用した。

開所に向けて、終末期を自分らしく生きるためのホスピス・緩和ケア推進に取り組む「日本財団」(尾形武寿理事長)が、四千九百三十一万円を支援。同財団の在宅ホスピスプログラムを活用し、あこやの職員が

入居者が使う個室と居間(奥) Ⅱ伊勢市岡本の「ホームホスピスイセ あこや」で

在宅ホスピスの現場で長期の実地研修を積み、耐震や耐火、エレベーターの設置など空き家を整備した。施設は木造二階建て(一部鉄骨)。一階には居間のほか、個室と二人居間を二つずつ用意。二階には、地域の人が交流できるコミュニティサロンを備えた。

六人の受け入れが可能で、入居だけでなく日帰りや短期滞在もできる。スタッフ二人が常駐し、介護保険や医療保険を使ったホスピスを受けながら、入居者が最期まで穏やかな日常を過ごせるようにサポートする。

開所式には、尾形理事長や鈴木健一市長ら関係者約三十五人が出席し、オープンを祝った。藤田理事長は「職員一同チームワークを良くして、地域が住みやすくなるように努めていきたい。伊勢をホームホスピスにできれば」とあいさつした。

学童部の子どもの合唱や、全国ホームホスピス協会理事の高橋紘士さんの講演もあった。



開所式であいさつする藤田理事長＝伊勢市岡本の「ホームホスピスイセ あこや」で